番　号	２４－１８	申　請　者	林　田　明　子

【審査申請課題】

在宅支援を必要とする重症心身障害児の家族の特徴と看護の方向性

【審査課題の概要】

熊本県菊池圏内の中核病院をかかりつけとし在宅生活を送っている重症心身障害児は年々増え（2006年4月から2012年3月　延べ17名）、毎年３名から５名の重症心身障害児が在宅移行目的にて転院してくる。在宅で健康問題を抱えている患児と共に生活していくためには、家族生活力量を把握することが必要であると島内ら[1)]は述べている。また、家族看護についての先行研究では、経験や知識に依存せず、アセスメントできるスケールを用いることで、家族を客観的にとらえ不足している情報を明らかにすることができると示唆されていたが、事例を振り返り分析・考察し、看護介入に至っている研究が少なかった。そこで昨年は、小児科病棟で、在宅家族生活力量アセスメントスケール（以下スケールと称す）を用いて、重症心身障害児の家族における生活力量の現状を明らかにした。よって、さらに今回は、入院初期より経時的（在宅移行導入期・準備期・移行期）にスケールを活用しアセスメントすることで、在宅支援を必要とする家族の特徴と、重症心身障害者の在宅移行への支援の方向性を明らかにしたい。

審査結果	承認（平成２５年１月１５日）

番　号	２４－１９	申　請　者	西　嶋　美　奈　子

【審査申請課題】

重症心身障害児（者）の排便コントロール～オリゴ糖を活用して

【審査課題の概要】

重症心身障害児（者）は、運動量が少なく、抗けいれん剤を長期にわたって服用していることも多く便秘になりやすい。また、脳性麻痺の患者は中枢神経の異常の運動神経コントロール不良があり、腸蠕動運動の低下や筋緊張のコントロールがしにくく、排便の時に『いきみ』にくい。また、便秘は、腸閉塞（イレウス）や痔疾にもつながり、浣腸や摘便は腸管麻痺や損傷の危険性がある。そのため自然排便を促す方法としてオリゴ糖を使用する事を研究的に取り組む事にした。

研究目的：重症心身障害児（者）にオリゴ糖を使用する事で、便性状の変化や自然便がみられるようになるか明らかにする。

方　　法：下剤使用と腹部マッサージ等の看護ケアは継続し、オリゴ糖を夕食後に与薬排便の排泄状況をチェック表を用いて観察記録し、ノンパラメトリック検定を使用し分析する

審査結果	承認（平成２５年１月１５日）